



## 能登半島地震時の支援活動を体験して

教授 川島和代



2007年3月25日午前9時42分、ぐらぐらっ、石川県では経験のない揺れである。震源地は能登半島沖、直下型M6.9との報道があった。大学は大丈夫？学生達は？電話がなかなかつながらない。一路、大学へ。「とにかく学生達の安否の確認を！」との学長の指示で教職員が手分けして安否確認を開始した。終了したのはその日の午後6時を回っていた。家屋に損壊を受けた学生もいたが、無事を確認し安堵した。翌日から、県の要請に応じて本学の教職員や大学院生が門前地区の高齢者世帯などの家庭訪問および避難所に医療ボランティアとして順次駐留することになった。派遣された人数は実員32人、延べ76人にのぼった。今回の支援活動をとおして学んだことが多数あった。

門前庁舎では地区保健師の方々が実に細やかに地域住民を把握し、次々と訪れる医療ボランティアの調整を図りながら支援にあたっていた。自宅も損壊という中で、住民の生命と生活を守らなければとの使命感に導かれての行動だったのではないかと考える。被災地で頑張る人々を支える方法を学ばなければならないと実感した。

また、高齢者が多いにもかかわらず仮設トイレは戸外にあり、いくつかの段差を超えねばならなかった。夜はごった返す避難所では眠れない、休めないと言う被災者もいた。避難所の環境をととのえる方法を学ばなければと感じた。

ストレスfulな環境下で過ごす人々には高血圧、不眠、肩凝り、頭痛、腰痛などの身体愁訴が多くみられた。「いつも揺れている気がする」、「夜も眠れない」、「一人になると恐ろしい」、「これからどうなるのか」、こうした訴えに静かに耳を傾け、その思いに共感する中で被災者の表情が安らいでいった。さらに眠れない方にアルコール洗髪を取り入れたり、肩凝りにマッサージを取り入れたりすると、疲れた身体とところが癒されるケアの力を再認識した。

教職員の支援の体験をこれからの災害時の看護としてさらに深め、充実させ、伝えていくことが、この度の自然災害から私たちに託された使命ではないかと思う。



### 目次

能登半島地震時の支援活動を体験して	1	キャンパスライフ	
大学の主な動き		フィールド実習	5
第8回入学式	2	小児看護学実習 I	6
オープンキャンパス	2	第VI段階実習	6
平成19年度日系研修事業	3	サークル活動紹介	6
国際交流の風2007(前編)	3	大学祭のお知らせ	7
新任教職員紹介	4	図書館から	8
		地域ケア総合センターから	8
		キャンパススケジュール 2007年度後期	8



## 石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科  
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)



# 大学の主な動き

## 第8回入学式

4月5日 石川県立看護大学に看護学部93名、大学院看護学研究科博士前期課程4名、後期課程3名の学生の皆さんが入学されました。入学おめでとうございます。

今年の入学式は3月25日の能登半島地震発災後11日目でした。被災された入学生の方も中にはおられたと推察いたします。我々県立看護大学の教職員も被災地への支援に伺いました。

いろいろな形で地球環境に変化が起こってきています。そのような時期に、本学へ入学され、学部学生は看護学の基礎を学び、大学院生は看護学に寄与する研究に取り組むべくスタートをきられました。

その皆様に、この詞に再度目をとおして頂ければと思います。



命 宮越由貴奈 (小学4年)

命はとても大切だ 人間が生きるための電池みたいだ でも電池はいつか切れる  
命もいつかはなくなる 電池はすぐにとりかえられるけど 命はそう簡単にとりかえられない  
何年も何年も 月日がたってやっと 神様から与えられるものだ 命がないと人間は生きられない  
でも 「命なんかいらない。」 と言って 命をむだにする人もいる  
ただたくさんの命がつかえるのに そんなひを見ると悲しくなる 命は休むことなく働いているのだから 私は命が疲れたと言うまで せいいっぱい生きよう

<出典>すずらんの会編集；電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ、角川書店

看護学を学ぶ皆さんの未来にエールをお送りしたいと思います。大いに学んでください。



## オープンキャンパス

2007年度のオープンキャンパスは、7月16日(月・祝)に実施されました。

参加申込総数は277名で、その内訳は高校生240名(石川県 191名、富山県 41名、福井県 4名、新潟県、長野県、岐阜県、京都府 各1名)、社会人12名、保護者25名でした。昨年度と同様、多くの高校生で賑わい、さらに在学生の若さにあふれる協力も手伝って大盛況のうちに終了いたしました。

当日は、大学概要・入試情報の説明後に参加者はそれぞれが選択した公開授業を受講しました。その後参加者を2班に分け、フィールド実習と国際交流の紹介、教職員による個別相談、在学生との交流、学内施設の自由見学が行われました。いずれのコーナーでも、活発な質疑応答があり、和やかな雰囲気の中に大いに盛り上がり、成功させることができました。アンケートの評価も上々で、参加者はこのオープンキャンパスをとおして、本学への理解をより一層深められたと思います。1人でも多くの参加者が本学への進学を志してくれることを期待しています。





## 平成19年度日系研修事業

平成19年度日系研修事業（JICA研修プログラム）として、高齢者福祉におけるデイケアサービス（Day Care and Community-based Clinical Preventive Health Care for the Elderly）に4名の研修生（仙野良子氏、石川三枝子氏、宮脇枝子氏、越智マサ子氏）がパラグアイから来県された。研修期間は、6月11日から8月21日の72日間であった。研修目的は、高齢者の尊厳を支え、それぞれの地域で健康な日常生活の自立を維持・支援するためのデイケアと介護予防の実践について学び、その機能を地域でシステム化することである。本学では週1回の講義を8回受講、週末には研修のまとめと翌週の研修計画を行った。週の3日間は羽咋市社会福祉協議会で元気高齢者から要介護高齢者、家族介護者への支援、介護予防事業にいたるまで幅広い実践について体験された。最終日8月21日にはパラグアイ国での具体的かつ実現可能な内容で立案されたアクションプランの報告会が開催された。石川県での4名の研修成果がパラグアイで実践され、今後とも応援することを伝え、研修を終えられた。



## 国際交流の風 2007（前編）

この欄では、平成19年度上半期の本学の国際交流の動きを振り返ってみたいと思います。まず、毎週火曜日の夕方には、昨年度に引き続き、かほく市国際交流委員のペラルタ マヌエル氏を講師に迎えてのEnglish breakを行いました。氏は、英語・スペイン語のバイリンガルでしたが、現在は日本語を加えてトリ（トライ）リンガルです（私も漢字まじりのメール文をやりとりしました）。6月には、そのマヌエル氏にお願いして、出身地アリゾナ州の自然、生活、文化についてお話しただく、第1回国際交流のつどいを開催しました。アリゾナ州にはグランドキャニオンを筆頭に素晴らしい自然がひろがっており、先住民の居留区も数多いのですが、現在はコロンプスの誤解（西インド諸島にたどりつき、インドだと勘違いした）を訂正し、先住民のことをアメリカンインディアンではなく、ネイティブアメリカンと呼ぶそうです（英語のネイティブスピーカーと混同しそうですね）。少年の頃日本の漫画を見て育ち、いつか日本に行こうと思うようになったそうです。アリゾナ州立大学で経営学と日本学の修士号を取得されたのち、名古屋の南山大学に留学され、谷崎潤一郎をはじめとする日本文学を専攻されたそうです。マヌエル氏のこんなご経歴も、「国際交流のつどい」の機会にうかがうまで、実はだれも知らなかったのです。国際交流、と一言で言っても、その深さには計り知れないものがあるのです。現代の若者に谷崎潤一郎を知る人がどれだけいるかわかりませんが、その文学に表現されるような美の世界に感銘をうける日本人で有り続けたい、またタニザキについて訊かれたら十分説明出来るような魅力的な日本人でありたいものです。マヌエル氏のお話のあと、会場を厚生棟のお茶室にうつし、今度はパラグアイからお見えになった日系研修生のみなさんの歓迎会が催されました（本年度第2回の国際交流のつどいです）。茶道サークルのみなさんがふだんと違って変わった楚々とした着物姿でお茶のお点前を披露され、またサークル員の琴の演奏で盛り上がりました。茶道サークルでご指導いただいている中谷先生と生け花のお話をされたりしてリラックスしたひとときを愉しまれました。お話を伺うと、地球温暖化の結果でしょうか、パラグアイではここ数年、夏期には40度を超える大変な暑さで、日中外を歩くことも出来ないほどだそうです。それでもみなさん大変若々しいのは、生き生きとお仕事に取り組んでこられたためでしょうか。ここ石川県で有意義な研修をされ、お帰りになってますますご活躍されますよう、お祈りいたします。



さて、上半期のもうひとつのトピックは、新しい英語版大学案内と英語版大学公式レターヘッドの完成です。大学案内はもしまだご覧になっていなければ、国際交流サテライト、図書館、談話室などに置いてありますのでぜひご覧下さい。レターヘッドは世界に通じる高松の海をイメージしたものです。いずれも、Ishikawa Prefectural Nursing Universityの名を広めるべく、外国人にとって発音しやすいIPNUを全面に打ち出しています。今後、Google検索でIPNUと打ち込むと本学のHPに繋がるようにしたいと考えています。

皆様がこの原稿をごらんの際には、夏期アメリカ看護研修を無事終えた13名の学生と引率教員の大島千佳先生が、充実した2週間を振り返って看大祭での報告会の準備をしていることでしょうか。次回はそのアメリカ看護研修についてお届けします。



# 新任教職員紹介



宮中 文子 教授  
(母性看護学)

この4月に母性・小児看護学講座、博士前期課程女性看護学分野に着任いたしました。これまで京都府立医科大学において臨床実践（産科・NICU）と教育（母子看護学・助産学）を通して、女性と子ども・家族への助産ケアを探索してきました。大学は御所の東、紫式部が源氏物語（虚構の中の正史でかつ女性史ともいえる）を執筆した邸宅址の廬山寺の隣にありました。その縁で、いつかは、女性と出産の歴史を研究したいと思っていました。石川県に参りましたのは、生まれ故郷に近く、古代は越の国といわれた歴史的風土で、海と山々が連なる美しい地だからです。石川県で初めての産婆学校で大正11年第1回生として学んだ竹島みいさんが能登門前町で活躍した地だということもあります。今のところ、女性看護・助産学の学問分野としての確立が優先課題であり、歴史研究はできそうにありませんが、京都からの毎週の通勤列車の中で、紫式部が父に伴って赴いた武生や、大伴家持が250首余の歌を詠んだ越中への道筋へ想いを巡らせています。どうぞよろしく願いいたします。



垣花 渉 准教授  
(健康体力科学)

人間科学領域にて健康体力科学を担当します垣花 渉（かきはな わたる）です。北陸で生活するのは初めてです。これまででは、関東の大学や研究所において、子どもから高齢者までの健常者または身体障害者の歩く、走る、跳ぶなどの運動の動作解析を行い、このような人たちの身体能力や健康状態を維持・増進させる方法に関する教育・研究を行ってまいりました。本学では、これまでの経験と知識を基盤として、将来看護師や保健師になる学生の心と身体を育み逞しく生きる力を育成できるように学生と共に切磋琢磨したいと考えています。そのため、講義や実技の正課と共に課外活動（フィットネスのサークル活動）を利用して、海や山などの豊かな自然環境を活かした健康・体力づくりに取り組んでいます。このような健康・体力づくりは本学の地の利を活かした試みであり、他の大学では行うことは難しいものです。是非成果のあるものにして学内・外へ発信していきたいと考えております。



牧野 智恵 教授  
(成人看護学)

私は数年大阪の大学病院で看護師として働いた後、生まれ故郷である福井県に戻り、20数年間、看護の教育・研究活動を行ってきました。研究の主なテーマは、「病や苦悩の中での『生きる意味』」です。そのきっかけは、慢性疾患あるいはがんに罹患した患者に出会う中で、彼らが「このような状況では生きる意味がない」と嘆き苦しむ訴えに遭遇したとき、いつも、何もできずただ励ましているだけの自分がいたからでした。このようなとき看護師はいったい何ができるのだろうかかと悩みました。そのような中、現象学的アプローチや、V.E.フランクルの著書に出会い、「苦悩 (suffering) は人間を成長させる」という考えのあることを知りました。そして、苦悩の意味を積極的に認め、それを超えていく患者自身の中に、本当の「健康な生」が存在するのだと気づかされました。人間の可能性を信じ、患者と関わる中で初めて本当の心のこもった看護が実践できるのではないのでしょうか。今まで福井県で行っていたこのような看護実践を、今後は石川県において、地元の看護師と共に実践し、さらなるがん看護の質の向上のために努力していきたいと思えます。



杉本 篤夫 准教授  
(保健・治療学)

縁あって平成19年4月から健康科学講座に着任しました。私は今まで東京・神奈川・千葉の医学部附属病院に所属し臨床・研究を行い、そして医学部生を主な対象として教育を行ってきました。

現在、わが国は少子高齢化、非常識な犯罪等の増加と、社会的・精神的問題を含め、将来に多くの不安を抱えております。そのような状況の中で、石川県立看護大学独自の看護学教育のお手伝いができることを大変光栄に思っておりますし、責任の重さを痛感しています。

当学の自然環境は、今まで私が経験したことのないような豊かさがあり、キャンパス内にいるだけで癒されるようです。

海辺の明るい陽光、四季おりおりの花、肌に心地よい涼風と勉学に勤しむにはまたとない環境ではないかと思われます。

また、生き生きと輝いて見える教職員の方々、そして、目的意識を持って授業に、課外活動に励む学生の方々もこの環境に恩恵を受けているものと思われました。

石川県は歴史や伝統を重んじる風土があり、そこで暮らすことのできる喜びを感じながら教育・研究等に力を注いでいこうと思っています。どうぞよろしく願いいたします。





吉田 和枝 准教授  
(母性看護学)

本年度4月から母性・小児看護学講座に着任しました。わたしは、会社員から看護の世界に転向し、京都で臨床経験を積みました。石川県出身の哲学者、

西田幾多郎氏が散歩をしたことから名づけられた「哲学の道」沿いに住んでいました。その後、大阪で母性看護学領域（家族看護領域）の教員の道に入りました。

法哲学、生命倫理学、医事訴訟、人間科学(社会環境学)と、中には一見、看護学と直接的な関係が無いような学問も学んできましたが、これらの学問は、基本的なところで看護や看護学に大きく関与しています。先人達の努力により看護学は大きく発展し、専門分野は細分化されましたが、看護学は様々な学問と接しており、その研究は学際的であるところが大きな特徴であると思います。わたしは、分野にあまり狭くとらわれないで、人間理解といった観点から看護を考えようと思ってきました。看護は「トータルな存在としての人間」に対する理解が必要であり、専門分野への細分化のみでは行き詰まるのではないかと考えています。

本大学の学生さん達は廊下で出会うと、笑顔で挨拶してくれる人が多く、とても気持ちが良いです。看護系の大学は学生も教員も過密スケジュール気味なことが多いですが、多忙すぎることに負の部分についての思慮も忘れず、そして生活に笑顔を忘れることが無いよう、また、時には大笑いもできるような、学生にとっても教員にとっても充実した楽しい場であるように努力していきたいと思っています。



武政 奈保子 准教授  
(精神看護学)

2007年4月より赴任いたしました。私立の大学病院で看護職として10年以上経験を積んだ後、千葉県で精神看護学の教員を10年間勤めて参りました。

精神看護学の教員になって良かったと思うことは、ストレスマネジメントと自分のこころの管理がうまくなったことです。若いときには誰でも自信がないし、誰でも現実から目を背ける時代があります。自分が定まらないという点で、精神看護の対象者も学生も私も同じ人間であることが理解できます。そんな悩める学生さんが大好きです。なんでも相談してください。一緒に考えていきましょう。

なぜ私が精神看護学に興味を持ったかという、精神看護の技術として、人の能力を引き出すエンパワメントがあるからです。看護をするものはエンパワメントを対象者に与えるだけではなく、自分もたくさん与えられます。これが看護者の自信につながります。

今年の夏休み、精神障害のある人たちと一緒に福祉施設で喫茶のウェイトレスの仕事をしました。はじめは、ぎこちなかった人が、要領とコツを覚えると結構がんばって働いていました。彼らには見守りと訓練の機会を与えられる場所と時間が必要です。安心できる生活がなければ精神障害のある人は障害をもっているというだけで病院から退院できません。早期退院のためには、臨床看護と退院後の生活の安全を守るケアは切り離すことはできません。だからこの大学では、地域・在宅・精神看護学講座があるのだなと納得しています。

## キャンパスライフ

### フィールド実習



1年 桑原 琴美

今回、実習の設定テーマをコミュニケーションと死とした私は、実習先として、住む場所の違いから意思疎通がより困難であり、また生き物の死に直面する機会のあると思われる水族館を選んだ。そして実習テーマを自分なりによく考え設定し、期待どおりの実習先に出向き、経験する機会に恵まれたのだが、実際に経験したことは自分の想像をはるかに超える厳しいものであった。

そういった環境下で自分が学んだこととして、コミュニケーションについては、人間と言葉により意思疎通を図ることの出来ない動物達だからこそ、飼育係が細かな注意を払わなければならないということだ。そのために、職員間でのミーティングでの情報交換や水温調節等の体調管理といった毎日の決まった細かい作業は欠かせない。そして外から水槽に入れるためのバケツいっぱい石を運んだり掃除をしたりといった体を張った作業も重要となる。次に、「死」についてだが、想像した飼育係の悲しむ姿はそこにはなかった。ジュース等のゴミと共に生ゴミに捨てられた魚達を目の当たりにし、ショックを受けた。

しかし後から死骸を解剖して徹底的に原因を追究することを知ると共に、職場においてそういった感情を持ち込まないという彼らのプロ意識を学んだ。

実習全体をとおして、それぞれの仕事観の違い、高いプロ意識ゆえに生じる職場での人間関係を築くことの難しさも学習するなど、設定テーマの答え以上のものを得ることが出来た。



## 小児看護学実習I



3年 梶田 衣里

私は、この実習において5歳児を受け持ちました。同じ5歳児でも理解力、形態的発達、運動能力等においても個人差があることがわかりました。これ以下の児でもわずかな月齢によって、セルフケア能力（言語能力・食事・排泄など）に個人差がみられることにも驚かされました。

保健指導案を作成する際には、児が最後まで興味を持って話を聞くことができるように、また理解力、考える力に個人差がある児らに対してどのような配慮が必要なのか試行錯誤を重ねました。私は、「強い骨にしよう！」をテーマに掲げ、食べ物の好き嫌いをしない、元気に外で遊ぶことに焦点を当てて紙芝居を作って話をしました。児はとても素直で真剣に話を聞き入れ、翌日のお昼のご飯時には嫌いな食べ物が出されても、紙芝居を思い出し約束事を忠実に守ろうという姿勢が見られとても嬉しく思いました。この実習をとおして、児の能力や個性に合わせてアプローチすることの大切さを実感しました。また、児を見る際には児の言動だけでなく、家庭環境や家族関係等の背景にも考慮して関わっていくことが重要であることを学びました。これらの学びを活かして、患者さん一人一人に合わせたより良い看護が提供できるよう、今後も追求心を持って看護観を深めていきたいと思えます。

## 第Ⅵ段階実習



4年 中山 千紘

地域・在宅看護学実習では、新生児から高齢者、健康な方や病氣・障害を抱えた方など、さまざまな発達段階・健康レベルの方を対象とし、保健師・訪問看護師の視点から看護を展開し実施した。

在宅看護学実習では、在宅で看護が必要な療養者への訪問看護に同行させていただき、ケアの見学や実施を行った。私は在宅療養を継続するには家族の協力がとても大きいことを実感した。在宅は病院などの医療施設とは異なり、常に医療者が側にいるわけではないため、家族だけでなく対象者も不安や困難を感じることもある。また、長い介護生活を継続するにあたり、問題なども生じる。そこで私は、この在宅実習で「精神的援助」とは何かについて考えた。精神的援助を一言で表すのは難しいと思う。何故なら、自分の行った援助が本当にその人にとっての精神的援助になっているのかは分からないからだ。しかしこの実習をとおして、精神的援助とは特別なものではなく、看護師が一生懸命対象者を理解しケアを行い、専門職としてできることを精一杯行なうという基本的なことが、対象者や家族の安心となり精神的援助につながるのだと学ぶことができた。

今回の実習で学んだことを生かし、地域住民が自分の地域で安心して暮らすことができるような看護を提供していきたいと思う。

## サークル活動紹介

### フィットネスサークル

1年 又村 恵

フィットネスサークルは、垣花先生の提案をきっかけに運動に興味のある1年生を中心に集まってできたサークルです。活動日は、週2回の毎回1時間ほどです。

前期は、基礎の筋力を付けるためにヨガやスタビライゼーションを中心にバランスボールなどを使ってトレーニングを行います。ヨガやスタビライゼーションは垣花先生の指導のもとレベルを少しずつ上げながら行っています。どのトレーニングも始めは上手にできませんが回数を重ねるごとに進歩がみられます。

また、室内のトレーニングだけでなく学校の近くの海でもトレーニング（ビーチバレーなど）も行います。サークルの活動内容はメンバーみんなで相談してやりたいことを決めて行っています。メンバーみんなが運動に興味を持っているのでやりたいことがたくさんあり予定はビッシリです。

夏休みの初めにはキャンプを行います。今年は、海で泳いだりバーベキューをしたあと、三国山キャンプ場に宿泊してメンバーみんなで語りあいました。普段の学校生活やサークル活動だけではわからないメンバーのことも発見できて楽しいイベントです。サークルメンバーはみんな明るく楽しい人ばかりなのでとても盛り上がります。来年も行えたらいいなと思っています。

さらに、大学祭では、運動に興味を持ってもらうため「ビリーズブートキャンプ」を自分たちでアレンジして、来てくださった方と一緒にやりたいと考えています。そのために、後期はスタビライゼーションなどと一緒に、「ビリーズブートキャンプ」もやっていこうと考えています。

4月から定期的にトレーニングを行ってきたため、8月の体力テストでは体が柔らかくなるなどの体力の向上が見られました。トレーニングも仲のよいメンバーで行うため楽しみながら行うことができます。まだ、できて間もないサークルですがこれからもサークルメンバー全員で協力しあいながら活動していきたいと考えています。





## 大学祭のお知らせ

# 第8回看護大学祭

今年度の看大祭のテーマ「KANGOPIA」(石川県立看護大学+ユートピア)は、“絆”、“Smile”、“人とのつながり”の3つのコンセプトにもとづいています。ご来校くださった皆様との一つひとつの出会いを大切に、人とのつながりを実感できる場になればいいなと思っております。

より多くの人に本校に足を運んでいただき、大学祭を一緒に楽しめたらと感じております。



日時：10月27日(土) 9:30～17:00  
28日(日) 9:30～17:00

場所：石川県立看護大学



### ♡ 催し物 ♡

10月27日(土) 9:30～17:30

- 9:30～10:00 Danceサークル
- 10:00～11:00 フィットネスサークル
- 11:00～11:30 特急看大略GO
- 12:00～12:30 ソーラン
- 15:30～16:00 カラオケ大会
- 16:30～17:00 スタンプラリー抽選会

10月28日(日) 9:30～17:00

- 9:30～10:00 ソーラン
- 10:30～11:00 バンド演奏
- 11:30～12:00 音楽サークル
- 12:30～13:00 子供ダンス
- 13:15～13:45 ○×クイズ
- 14:00～15:30 ビンゴ大会
- 15:30～16:00 スタンプラリー抽選会
- 16:30～17:00 ミス・ミスターコンテスト

### 両日開催

- ・看護体験
- ・スタンプラリー
- ・縁日・お化け屋敷
- ・模擬店 など



### 講演会

10月27日(土)  
13:30～15:00

講師 加藤作子氏

「生きる力、生きる喜び  
～チャレンジするって  
素晴らしい」

**入場無料**

2000年 シドニー  
パラリンピック出場  
水泳200m自由形リレー  
金メダリスト



## 図書館から

## 蔵書点検について

8月6日(月)～11日(土)、蔵書点検のための休館で、学内外の利用者にご迷惑をおかけしました。「長い間休館して何をしているのか」と不思議に思われるかもしれませんが、蔵書点検というのは1年に1回行う「棚卸」のことです。不明図書の確認や、実際に資料のある場所と目録の記述が正しく一致しているかを点検します。その他増加する蔵書を上手く管理するため、閉架書庫への移動など日常では出来ない作業をしますので、毎年、多くの学生ボランティアに協力をお願いしております。

### 蔵書点検作業手順

- ①専用の機械で、図書に貼付けのバーコード番号を1冊1冊読み込みます。今回の読み取り対象数は約48,000冊です。
- ②読み込んだデータをサーバーに転送し、あるべき場所のない未読データを抽出し、「一時不明リスト」を作成します。(今回の未読データは約1,500件でした。)
- ③このリストを持って、スタッフ総掛かりで図書を探します。書架のうしろに入りこんだり、他の本にはさまっていないかを確認し、最終的には不明図書149冊となりました。(この数字は、貸出未処理図書が返却されると、徐々に減ってゆきます。)



## 地域ケア総合センターから

### 『退院調整(支援)計画』・・・3回シリーズで研修を開催

病院の機能分化や入院日数の短縮化傾向が進み、在宅療養生活への移行支援の充実が重要視される中、看護師による退院調整(支援)活動が注目されています。県内病院でも、地域連携室等に退院調整看護師を配置し、病棟看護師、医師やメディカルと協働しながら入院から在宅まで、切れ目のない医療を提供し、患者・家族の方々が望む療養生活をスタートするための支援が始まっています。本年度は3回シリーズで『退院調整(支援)計画』の研修会を実施しました。1回目は「退院調整(支援)の役割と機能―患者・家族の意思を尊重した退院調整(支援)のあり方について」、2回目は「退院調整(支援)に役立つ在宅看護・介護の知識」、3回目は「退院調整(支援)の実際と課題」について、県内病院の看護師および本学の退院調整研究会の教員によるシンポジウムを開催しました。多くの看護職の参加があり、意見交換も活発でした。



現在、平成20年度の研修・公開講座等の企画を検討しています。皆様のご意見・ご要望を地域ケア総合センターまでお寄せ下さい。

## キャンパススケジュール 2007年度後期

10月1日(月)	後期授業開始
10月1日(月)～12日(金)	後期履修登録受付
10月27日(土)・28日(日)	第8回看護大学祭
-----	
12月25日(火)～1月7日(月)	冬季休業(ただし、4年次生は12月26日(水)～1月7日(月))
-----	
2月25日(月)	入学試験(前期日程)
-----	
3月10日(月)～	春季休業
3月12日(水)	入学試験(後期日程)
3月15日(土) 予定	卒業式・学位授与式

発行 ● 石川県立看護大学

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)